

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社会福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園グループホーム さくら棟		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西70番地		
自己評価作成日	令和6年9月1日	評価結果市町村受理日	令和6年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地に菜園や花壇を有し、牛舎、桃園、梨園、田圃も隣接しており、自然豊かな環境に恵まれた共同生活の場である。利用者様は、朝食後の園庭散歩からスタートされ、それぞれに出来る事を続けて、馴染み関係を大切にしながら日々穏やかに生活されている。毎日の体操、季節毎の行事、誕生会、地域の神社参り、近隣への花見、畑での野菜や果物作り、花壇の花植えや手入れ、家事や手作業等々、時には助け合いながら、残存機能を活かし楽しまれている。家族様にはメッセージカードや広報誌、ブログの発信で皆様の様子を伝え、電話や手紙のやり取りをされる方もある。介護相談員訪問や虹いろカフェを再開し、徐々にコロナ禍前の本来の外部受入れ体制を目指している。訪問看護や嘱託医の導入で、休日や夜間、緊急時の医療連携体制を整備し安心・安全に繋げるよう取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かで開放的な環境の中で、地域の中での生活が戻り、入居者の出来る力の発揮した日常(朝から玄関やベランダの掃除に勤む入居者等や野菜作りに精を出す等)、集団での活動(毎朝の体操、季節毎のイベント、運動会、グラウンドゴルフ等)や趣味の継続(編み物等)等が笑顔ある日常として生かされ、ブログやホーム便り等による情報の発信が家族との関係性を一層強化している。地域密着型事業所として、認知症カフェの再開や有事の際の福祉避難所としての役割を果たすホームでは管理者を中心とした意思疎通の良さや職員同士の支えあう姿勢が業務改善意識の高さとして記録に表れ、研修の充実や委員会活動によりケア向上に努め、高齢化の入居者を支えるホームとして“今日できる事は 今日する”をモットーとしてケアに携わり、入居者の言葉である「ここで良かった」が職員の励みとなっている。医療体制の見直しが更に家族の不安軽減として生かされており、終の棲家として大いに期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人としては「信頼」「尊重」「向上」を、グループホームとしては「自然、地域、人を愛す」という理念を掲げ、目につく場所に掲示して常に意識付けながら、管理者と職員が丸となって共有し実施に繋げている。</p>	<p>「自然を愛し、地域を愛し、人を愛す」というホームの理念をもとにした目標である“地域との交流促進”や職員一人ひとりが目標を持ち、進捗状況を精査しながらケアに取り組んでいる。入居者個々の違いはあれども“生活の場”で共に生きることや精神面を支えるホーム、安心できるホームの形成に心一つに邁進している。今回の自己評価も全員で関わる等チームワークを大切にしたホームが形成されている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>新型コロナウイルス感染症5類移行後、介護相談員訪問や虹いろカフェを再開し、定期的に地域との交流を図り、面会においても窓越しから相談室での実施とし徐々に対応の緩和に努めている。</p>	<p>地域の中での生活が徐々にできる状況になり、外部との交流は多くはないものの、出来る事で楽しみのある生活へと反映させている。地域も近隣住民との交流として生かされ、近くの神社参拝等地域生活が充実してきている。グラウンド大会等自然の中で伸びやかな生活を支援している。</p>	<p>これまでの保育園児との交流等が感染対策として今のところは開催できない状況のようである。子どもとの交流が更に入居者にとって喜びになると期待され、検討いただきたい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>入居申し込みや施設見学の際、認知症についての専門性を活かし様々な事例についての相談等に応じている。地域の見守り・声掛け訓練や公民館・小学校での認知症サポーター養成講座を実施している。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上 に活かしている	原則として奇数月に開催し、入居者代表、 家族代表、地域区長、民生委員、消防団 長、地域住民代表、町保険政策課長、地域 包括センター職員、法人代表出席の下、施 設サービス全体の状況報告や課題の抽出、 検討を行っている。	定期的に開催する運営推進会議は、2ヶ月 毎の活動や入居者の状況報告をもとにした 意見交換が行われている。家族の心配する事 案も発信できる機会として生かされ、行政か らの適切な回答が得られている。入居者・ 家族・区長・民生員・地域住民・地域包括支 援センターや保険政策課長等充実したメン バー構成となっている。入居者の参加が認 知症ケア推進の一端も担う会議となり、この 会議を通して医療連携等の新たな取り組み を発信する機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積極 的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組 んでいる	介護保険に関する各手続時をはじめ、認知 症にやさしい地域づくりネットワーク委員会、 認知症サポーター運営委員会、介護相談員 訪問や虹いろカフェについて共同で取り組 み地域共生に繋げている。	指定更新申請や介護保険更新申請、4町村 (錦町・球磨村・山江村・五木村)の助成金 申請や処遇加算等に出向きながら情報交 換に努め、認知症にやさしい地域づくりネッ トワーク委員会、認知症サポーター運営委 員会等に参画している。声かけ徘徊模擬訓 練やオレンジカフェ(虹いろカフェ)等協働し ながら取り組み、介護相談員制度の利用は、 入居者の情報を把握するとともにケアサー ビスに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準に おける禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束 をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことの宣誓文を掲示し身 体拘束廃止の指針を基に、毎月身体的拘 束適正化検討委員会や勉強会で事例検討 等を行っている。	玄関及び各ユニットに身体拘束を行わない とした宣言文を掲示し、意識強化を図って いる。毎月の勉強会の中でスピーチロックに 関するビデオでの研修や、「ちょっと待って」 等に言葉遣い等には待って貰う理由を言う ことで納得して貰うとしているセンサーの使用 も無く、転倒のリスクの高い場合には衝撃 吸収マットを使用することもある。入居者は 徘徊も無く、落ち着いた生活ぶりであり、束 縛の無い自由な生活ぶりである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての法人内部及び外部研修に参加することで、職員全体で絶対にあってはならないことの周知、共有を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、職員のスキルアップを目指して、又個々の要望に応じて、法人内全体研修参加や認知症実践者研修の受講、介護支援専門員資格取得を奨励している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際に、管理者より解り易く説明し、利用者様や家族様からの疑問点には明確に答え、充分理解された上で安心されるような対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会や電話での会話の際等、出来るだけ情報を共有し、忌憚ない意見や要望を伺っている。玄関先に「こころの声」の用紙を設置し、いつでもどなたでも遠慮なくご意見を寄せていただけるよう努めている。	玄関に“心の声”として用紙等を設置し訪問者からの意見や要望等を収集する機会としている。家族には訪問時や電話等により近況報告や要望等を聞き取りしケアサービスに反映させている。また、担当職員による月次報告及び2ヶ月毎のホーム便りとともにブログやホームページを駆使しながらホーム生活を発信している。更に、運営推進会議も問題提起の場として生かされている。	ホームでの状況は様々な媒体を利用して発信されている。入居者と家族との交流される機会が更に増えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会、人事考課時の面談、日々の申し送りや現場での必要時、職員からの意見や提案を聞き、検討しながら反映させている。	日々の申し送りや毎月の勉強会、法人の全体会議や委員会活動等を通して職員の意見や提案等を収集する他、職員同士での話し合いの結果をホーム長へ上申する体制として、出来るだけ申し出て欲しいと投げかけている。職員はお互いを尊重しあいながらケアに取り組み、働き方改革として休憩時間を徹底している。業務改善シートをそれぞれの職員が提出・検討し、業務スケジュールの見直し等職員の意見や提案をホーム運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営会議を定期的開催し、働き方改革を基に職員の労務関係全般について見直しや検討を行い、出来るだけ働き易く、やりがいのある職場作りに取り組んでいる。業務ワークシートの見直しや業務改善を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員のスキルアップを目指して、又個々の要望に応じて、法人内全体研修参加や認知症実践者研修の受講、介護支援専門員資格取得を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通して、他事業所との情報交換及び交流の場を設け、お互いのサービスの質の向上に繋げるよう取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様に出来るだけ分かり易く説明し、困りごとや不安なこと、要望について、ご自身の気持ちを引出し、寄り添いながら会話対応し、落ち着いて安心されるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が抱えておられる困難さや不安感を伺い、施設で出来る事は可能な限り要望、意向に添えるよう支援することを伝え、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを充分に行い、本人様、家族様をはじめ、その他これまで関わりのあったケアマネ、関係機関も含めて、本人様本位で考えた必要とされる支援について、多職種連携して対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事を見極め、家事や菜園活動、それぞれの特技や趣味を活かしながら共同生活の場として信頼関係を築き、穏やかな日々を過ごされるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状況は、緊急時は直ちに家族様に報告し、他に毎月のメッセージカードでお一人ずつの状況を伝え、その他広報誌、ブログ発信等で日々の様子を共有している。又、電話やはがき、手紙のやり取りもされている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族をはじめ、在宅時の近隣の方、昔からの友人の方々の面会等を受入れ、懐かしさやゆっくりくつろげる場を大切にしながら、穏やかに過ごされる時間の支援に努めている。	家族の協力により自宅への仏壇参り、葬儀への参列、神社参拝等を支援している。四季毎の行事や野菜作り、パッチワーク・編み物等これまでの生活歴に応じて馴染みや人・場所との関係性が途切れない様支援している。家族の訪問以外にもいつも一緒に散歩していたとして訪問してくださる知人、家族からの手紙、春夏秋冬に応じた慣習の継続(しゅんなめじよの制作、観月会等)の他、ホーム近くからの入居者も馴染みの場所として会話を盛り上げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、家事や共同作業、行事や活動を通して、利用者間の馴染み関係の構築を支援している。何気ない会話も大切にしながら、利用者間の和に繋がるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係機関に必要な情報を提供し、退居後の状況を把握しながら、時には家族様の相談事に応じ、関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、お一人ずつの会話を通して気持ちを引出しながら、希望や意向を汲み取るよう努めている。申し送りや勉強会でのケア検討で、職員間の情報共有、課題の抽出、困難時のケア検討を行っている。	日常生活の中で出来る限り入居者との会話に努め、直接の申し出や職員が選択肢を投げかけながら入居者個々の思いを引き出している。入居者同士の会話からの把握や一人ひとりのペースに合わせた対応として、急がせないケアを徹底している。把握した事案は全員で検討する体制として、入居者の言葉はそのまま残し、プランの見直しに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活環境や既往歴、生活歴を把握し、家族様をはじめ他サービス利用時の担当ケアマネ、関係機関からの利用時の情報に基づき更に把握に努める。本人様からも聞き取りを充分に行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分に様子観察を行い、コミュニケーションを取りながら、出来ること、出来ないこと、好まれること、そうでないこと、生活のペースやリズム等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様、看護師、担当職員、計画作成担当者で、定期的にサービス担当者会議を開催し、本人様、家族様の要望・意向、ニーズ、支援のあり方を検討し、それに基づいた介護計画の作成や見直しを行っている。	本人・家族の意向をもとに、ケア検討勉強会としてケアを検討するなどプランを振り返り、最終検討結果を基に更に検討し正式なプランを作成している。意欲低下やトイレ（夜間のパット変更後の睡眠状態等）等振り返りシートを活用しながら全員で精査する他、3カ月ごとのモニタリング、変化が無ければ半年ごとの見直しの他、入院によるプランを見直し、退院に向けた見直し等現状に即した詳細且つ具体的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のお一人ずつの状態を、項目毎に個別のケース記録に入力管理し、全職員で情報を把握、共有し実践して介護計画に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や嘱託医を導入し、休日や祝日、夜間の急変時に早急に対応出来る体制を構築し、更に安心な生活に繋がれるよう努めている。共用型デイサービス併設で地域のニーズにも貢献している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア協力の下、虹いろカフェの実施や介護相談員訪問の受入れを再開し、地域との繋がりを活かしながら、活気や楽しみのある生活の支援に努めている。(利用者参加は感染症の状況次第で判断)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の導入に伴い、家族様にはご理解、同意をいただき、24時間連絡可能な主治医として契約を交わし、安心していただけるような医療連携体制をとっている。その他必要に応じて専門医受診も支援している。	医療体制を見直し、24時間入居者が安心してホームでの生活を継続出来るようにと、訪問診療と訪問看護へと移行している。変更するに当たっては家族への説明、承諾を得ており、他業種連携システム(バイタリンク)の導入により、かかりつけ医や訪問看護、調剤薬局との連携が正確且つスピーディーに実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場介護職は、日々の利用者の状態を把握し、常に施設内の看護師及び訪問看護師と連携して、嘱託医指示の下適切な処置や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、直ちに情報提供を行い、本人様の経過について病院、家族様、嘱託医、訪問看護と定期的に情報を共有する。必要時は面会し状態を把握する。退院時は全職員で状態を把握し、再度施設での生活のリズムに馴染まれるよう多職種連携して支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際に、契約書の中で重度化された場合の指針についての説明を行い、本人様や家族様の意向を伺い、考えを共有している。その後も状況に応じて検討し、嘱託医に相談し判断を仰ぎながら、本人本位の支援に繋げるよう努めている。	入居時に“重度化した場合の指針”を今後を見据えて家族に説明している。かかりつけ医(嘱託医)の体制が整備されたことで、家族やホームの安心に繋がっているが、最終の支援については家族の意向を最優先とし、入居者一人ひとりが「その人らしい人生が全う出来るように」支援に当たりたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を整備し情報共有に備えている。施設看護師、訪問看護、嘱託医が連携し急変時の対応に努めている。AEDを設置し法人内研修や訓練で実践力を身に付けている。	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練や災害避難訓練、日々の夜間帯の消防避難訓練を実施している。BCPを作成し、職員間で災害時や感染症発生時のマニュアルに沿った動きを周知、共有している。勉強会等で定期的に発電機の取扱い等を確認し共有している。地域合同訓練は未実施である。	地震等の自然災害を含めた避難訓練を年4回実施(内1回は消防署立ち会い)する他、夜間帯の消防訓練やBCPをもとに災害や感染症に対する事前対策や対応を机上訓練として実施している。月1回の構造物の点検及び男性職員による避難経路の除草作業、自家発電機の使い方の研修等有事に備えた体制を強化している。	地域の福祉避難所として期待されたホームである。地域との合同訓練はここ数年実施していないとの事、地域の状況を鑑みながら運営推進会議等で検討される事が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、お一人ずつを尊重し、傾聴しながらその場に応じて優しく丁寧な声掛けや説明を心掛けている。トイレや入浴時のドアやカーテンの開閉、タオル等を活用したプライバシーの保護に努めている。	職員は入居者のこれまでの生活歴等を尊重し、ホームで安心した生活が送れるよう心がけている。職員に対する守秘義務の徹底と、ブログや広報紙への写真掲載については家族の了承を得て対応している。トイレや入浴等安全面の確保とともに羞恥心にも気を配り、プライバシーの確保に努めている。認知症サポーターとして外部へ出向く際にも個人情報については十分に注意を払った対応としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の利用者様との会話や関わりの中で、出来るだけそれぞれの思いや要望を聞き取り、好みの食べ物ややりたいこと、服装や欲しい物等を把握し、少しでも希望に添えるよう、家族様とも共有して実現に繋げるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理をせず、急がせず、お一人ずつのペースに応じて、状況を見ながら本人様の思いに寄り添って気持ちを伺いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人ずつ個人のブラシで整髪され、定期的に美容師来設の下散髪をされる。中には利用者様希望に応じて施設で髪染めを支援している方や化粧をして身だしなみを整えられる方もおられる。男性の方は、自身で髭剃りをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人ずつの食の好みを把握し、時には施設の菜園と一緒に野菜を収穫したり、下ごしらえしたものを材料にしながら話題を提供し、食事の準備、盛り付け、食後の下膳、後片付け等出来る事を促し、食生活全般の楽しみを支援している。	法人施設の献立表を参考にしながら、入居者の要望や季節の食材を取り入れた手作りの食事が提供されている。地域商店を利用した食材や収穫した野菜を使い、下ごしらえから片付けまでそれぞれが手伝う等野菜作りから食卓に上るまでの一連が入居者の笑顔や会話を生み出し、行事事の祝い膳や饅頭作り等入居者の楽しみ及び出来る力を食を通して生かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が作成した献立表を参考にして、助言や指導を受けながら、バランスの良い食事を提供している。定時や訴え時の水分補給を徹底し、出来るだけ水分摂取量の確保に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要時に義歯洗浄、歯磨き、うがいを徹底し、口腔内の清潔保持に努めている。義歯ブラシや舌ブラシを使用し、夜間は義歯洗浄剤で消毒管理している。入居者中6名は全て自歯であり、必要時は歯科で歯垢削除等お願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人ずつの排泄の状況に応じて、布シューズのみ、布シューズにポイズやパッド、リハビリパンツのみ、リハビリパンツにパッド使用等使い分けている。状況次第でパッドの種類を変更しコスト面での負担軽減に配慮している。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、日中は声かけや誘導によりトイレでの排泄を基本としている。職員はトイレ近くで待ち、転倒等の危険回避に排泄後にはコールを押して知らせて貰うことにしているが、徐々にできなくなった方については全員で情報を共有し対策を検討している。また、夜間帯に使用するポータブルトイレも使い始めると、更に状況を評価しながら使用の可否を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人ずつの排泄の状況を把握し、出来るだけ身体を動かされるよう促し、排便困難時は、個々に応じてきな粉牛乳の提供や繊維質の野菜を取り入れた料理やおやつ等をメニューに取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個室でゆっくり楽しまれるよう配慮しながら、季節によっては菖蒲湯やゆず湯等でリラックス出来るひと時を提供している。要望に応じて入浴時に髪染めをされる方もおられる。爪切りやクリーム塗布等整容ケアの場としても大切な時間と考える。	入浴は週に2～3回を目処にしているが、個別の入浴日は記録に残し、間隔が空かないように管理している。入浴拒否が有る入居者には散歩後にそのまま浴室に誘い、汚染時にはシャワーで対応する等清潔に過ごして貰うよう心がけている。菖蒲湯や柚湯など季節や慣習にも対応している。冬場には事前に脱衣所や浴室を暖めてヒートショックが無いよう取組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操や歩行訓練、その他の活動等適度な運動を取り入れ、夜間の安眠に繋がるよう支援している。定期的に布団干しを行い、居室は換気や適温・適温に配慮し、心地よい休息や安眠の場づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを基に、全職員で利用者毎の服薬内容を把握、共有している。服薬の際は、名前や日付を声に出して確認し、最後まで確実に目視で見届けるよう徹底してその後も状態観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者お一人ずつの出来ること、好まれることを把握し促しながら、歌や踊り、塗り絵、貼り絵、裁縫、編み物、家事、菜園活動等に取り組み楽しませられている。洗濯物やおしぼりたたみ、花の水替え、玄関やバルコニーの掃き掃除をされる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の帰省や冠婚葬祭時等、本人様や家族様の希望に応じて外出していただいている。花見や神社参拝等、皆様一緒に近隣に出かけられることもある。新型コロナウイルス感染症5類移行後、徐々に対応を緩和しているところである。	天気の良い日には園庭を散歩し、神社参拝や花見等地域の資源を生かしながら外に出る機会を作っている。梅園へのバスハイク、コスモス畑へ出かけたり、朝食後の散歩や野菜の収穫、玄関先の花植え等屋外活動が入居者の生活の張り合いとして生かされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	神社参拝時等は、お一人ずつそれぞれがお賽銭を持参される。コロナ禍以前は移動販売やふるさと祭りに外出の際にお金の所持や使用を支援していた。今後徐々にそのような機会を提供していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いの作成、日頃の電話やはがき・手紙のやり取りをされている。担当職員からのメッセージカード・広報誌の郵送、行事や活動のブログでの発信等、状況の報告や共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、明るさや分かり易い表示等に配慮し、周りの手すりの設置で安全な動線を確保し、ホールの壁には、季節に応じた飾りや日頃の活動時の写真をほどこし、いつでも足を止めて、思い出話等が出来るよう又穏やかな気分で過ごされるよう努めている。	リビングの壁面には季節の飾りや入居者の日常を紹介した写真が掲示され、会話のきっかけとなるよう工夫している。台所と一体となったミニパブリックスペースでは、時には入居者がテーブル席で下処理を手伝い、ソファでは定位置に腰を下ろし馴染みの話が飛び出すとのことである。廊下の先にある旧ダイニングでは朝の体操で身体を動かし、ユニット合同行事に活用する等天候の如何に関わらず入居者の気分転換の場としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを置きそれぞれの馴染み関係の構築を支援し、バルコニーや園庭のベンチで散歩の合間等に休憩や会話出来る場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子、飾り物、写真立て等を持ち込まれ、落ち着いた雰囲気の中で過ごされるよう努めている。中にはご位牌を置かれ、仏飯とお茶を備えてお参りされている方もおられる。	入居前に“持参品の一覧表”を家族に提示し、持込み品について説明している。入居日に合わせて用意する必要は無く、徐々に持参してもらえば良い旨を伝えている。使い慣れた家具や小物、畑作業をしたいからと自ら長靴を持参される方等をおられる。居室によっては物の多少はあるが、ベッドメイキングにより整理整頓され、作品や家族からの手紙やハガキ等が大切に貼られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かり易いように掲示したり、明るい雰囲気作りに配慮し、施設全体の必要ヶ所に手すりを設置し、動線を確保して安全・安心な生活を送ることが出来るよう環境を整えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社会福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園グループホーム うめ棟		
所在地	熊本県唐津郡錦町大字西70番地		
自己評価作成日	令和6年9月1日	評価結果市町村受理日	令和6年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地に菜園や花壇を有し、牛舎、桃園、梨園、田圃も隣接しており、自然豊かな環境に恵まれた共同生活の場である。利用者様は、朝食後の園庭散歩からスタートされ、それぞれに出来る事を続けて、馴染み関係を大切にしながら日々穏やかに生活されている。毎日の体操、季節毎の行事、誕生会、地域の神社参り、近隣への花見、畑での野菜や果物作り、花壇の花植えや手入れ、家事や手作業等々、時には助け合いながら、残存機能を活かし楽しまれている。家族様にはメッセージカードや広報誌、ブログの発信で皆様の様子を伝え、電話や手紙のやり取りをされる方もある。介護相談員訪問や虹いろのカフェを再開し、徐々にコロナ禍前の本来の外部受入れ体制を目指している。訪問看護や嘱託医の導入で、休日や夜間、緊急時の医療連携体制を整備し安心・安全に繋げるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としては「信頼」「尊重」「向上」を、グループホームとしては「自然、地域、人を愛す」という理念を掲げ、目につく場所に掲示して常に意識付けながら、管理者と職員が一丸となって共有し実施に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症5類移行後、介護相談員訪問や虹いろカフェを再開し、定期的に地域との交流を図り、面会においても窓越しから相談室での実施とし徐々に対応の緩和に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みや施設見学の際、認知症についての専門性を活かし様々な事例についての相談等に応じている。地域の見守り・声掛け訓練や公民館・小学校での認知症サポーター養成講座を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則として奇数月に開催し、入居者代表、家族代表、地域区長、民生委員、消防団長、地域住民代表、町保険政策課長、地域包括センター職員、法人代表出席の下、施設サービス全体の状況報告や課題の抽出、検討を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関する各手続時をはじめ、認知症にやさしい地域づくりネットワーク委員会、認知症サポーター運営委員会、介護相談員訪問や虹いろカフェについて共同で取り組み地域共生に繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことの宣誓文を掲示し身体拘束廃止の指針を基に、毎月身体的拘束適正化検討委員会や勉強会で事例検討等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての法人内部及び外部研修に参加することで、職員全体で絶対にあってはならないことの周知、共有を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、職員のスキルアップを目指して、又個々の要望に応じて、法人内全体研修参加や認知症実践者研修の受講、介護支援専門員資格取得を奨励している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際に、管理者より解り易く説明し、利用者様や家族様からの疑問点には明確に答え、充分理解された上で安心されるような対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会や電話での会話の際等、出来るだけ情報を共有し、忌憚ない意見や要望を伺っている。玄関先に「こころの声」の用紙を設置し、いつでもどなたでも遠慮なくご意見を寄せていただけるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会、人事考課時の面談、日々の申し送りや現場での必要時、職員からの意見や提案を聞き、検討しながら反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営会議を定期的に行い、働き方改革を基に職員の労務関係全般について見直しや検討を行い、出来るだけ働き易く、やりがいのある職場作りに取り組んでいる。業務ワークシートの見直しや業務改善を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員のスキルアップを目指して、又個々の要望に応じて、法人内全体研修参加や認知症実践者研修の受講、介護支援専門員資格取得を奨励している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通して、他事業所との情報交換及び交流の場を設け、お互いのサービスの質の向上に繋げるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様に出来るだけ分かり易く説明し、困りごとや不安なこと、要望について、ご自身の気持ちを引出し、寄り添いながら会話対応し、落ち着いて安心されるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が抱えておられる困難さや不安感を伺い、施設で出来る事は可能な限り要望、意向に添えるよう支援することを伝え、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを充分に行い、本人様、家族様をはじめ、その他これまで関わりのあったケアマネ、関係機関も含めて、本人様本位で考えた必要とされる支援について、多職種連携して対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事を見極め、家事や菜園活動、それぞれの特技や趣味を活かしながら共同生活の場として信頼関係を築き、穏やかな日々を過ごされるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状況は、緊急時は直ちに家族様に報告し、他に毎月のメッセージカードでお一人ずつの状況を伝え、その他広報誌、ブログ発信等で日々の様子を共有している。又、電話やはがき、手紙のやり取りもされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族をはじめ、在宅時の近隣の方、昔からの友人の方々の面会等を受入れ、懐かしさやゆっくりくつろげる場を大切にしながら、穏やかに過ごされる時間の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、家事や共同作業、行事や活動を通して、利用者間の馴染み関係の構築を支援している。何気ない会話も大切にしながら、利用者間の和に繋がるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係機関に必要な情報を提供し、退居後の状況を把握しながら、時には家族様の相談事に応じ、関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、お一人ずつとの会話を通して気持ちを引出しながら、希望や意向を汲み取るよう努めている。申し送りや勉強会でのケア検討で、職員間の情報共有、課題の抽出、困難時のケア検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活環境や既往歴、生活歴を把握し、家族様をはじめ他サービス利用時の担当ケアマネ、関係機関からの利用時の情報に基づき更に把握に努める。本人様からも聞き取りを充分に行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分に様子観察を行い、コミュニケーションを取りながら、出来ること、出来ないこと、好まれること、そうでないこと、生活のペースやリズム等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様、看護師、担当職員、計画作成担当で、定期的にサービス担当者会議を開催し、本人様、家族様の要望・意向、ニーズ、支援のあり方を検討し、それに基づいた介護計画の作成や見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のお一人ずつの状態を、項目毎に個別のケース記録に入力管理し、全職員で情報を把握、共有し実践して介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や嘱託医を導入し、休日や祝日、夜間の急変時に早急に対応出来る体制を構築し、更に安心な生活に繋がられるよう努めている。共用型デイサービス併設で地域のニーズにも貢献している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア協力の下、虹いろカフェの実施や介護相談員訪問の受入れを再開し、地域との繋がりを活かしながら、活気や楽しみのある生活の支援に努めている。(利用者参加は感染症の状況次第で判断)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の導入に伴い、家族様にはご理解、同意をいただき、24時間連絡可能な主治医として契約を交わし、安心していただけるような医療連携体制をとっている。その他必要に応じて専門医受診も支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場介護職は、日々の利用者の状態を把握し、常に施設内の看護師及び訪問看護師と連携して、嘱託医指示の下適切な処置や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、直ちに情報提供を行い、本人様の経過について病院、家族様、嘱託医、訪問看護と定期的に情報を共有する。必要時は面会し状態を把握する。退院時は全職員で状態を把握し、再度施設での生活のリズムに馴染まれるよう多職種連携して支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際に、契約書の中で重度化された場合の指針についての説明を行い、本人様や家族様の意向を伺い、考えを共有している。その後も状況に応じて検討し、嘱託医に相談し判断を仰ぎながら、本人本位の支援に繋げるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を整備し情報共有に備えている。施設看護師、訪問看護、嘱託医が連携し急変時の対応に努めている。AEDを設置し法人内研修や訓練で実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練や災害避難訓練、日々の夜間帯の消防避難訓練を実施している。BCPを作成し、職員間で災害時や感染症発生時のマニュアルに沿った動きを周知、共有している。勉強会等で定期的に発電機の取扱い等を確認し共有している。地域合同訓練は未実施である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、お一人ずつを尊重し、傾聴しながらその場に応じて優しく丁寧な声掛けや説明を心掛けている。トイレや入浴時のドアやカーテンの開閉、タオル等を活用したプライバシーの保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の利用者様との会話や関わりの中で、出来るだけそれぞれの思いや要望を聞き取り、好みの食べ物ややりたいこと、服装や欲しい物等を把握し、少しでも希望に添えるよう、家族様とも共有して実現に繋げるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理をせず、急がせず、お一人ずつのペースに応じて、状況を見ながら本人様の思いに寄り添って気持ちを伺いながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人ずつ個人のブラシで整髪され、定期的に美容師来設の下散髪をされる。中には利用者様希望に応じて施設で髪染めを支援している方や化粧をして身だしなみを整えられる方もおられる。男性の方は、自身で髭剃りをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人ずつの食の好みを把握し、時には施設の菜園と一緒に野菜を収穫したり、下ごしらえしたものを材料にしながら話題を提供し、食事の準備、盛り付け、食後の下膳、後片付け等出来る事を促し、食生活全般の楽しみを支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が作成した献立表を参考にして、助言や指導を受けながら、バランスの良い食事を提供している。定時や訴え時の水分補給を徹底し、出来るだけ水分摂取量の確保に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要時に義歯洗浄、歯磨き、うがいを徹底し、口腔内の清潔保持に努めている。義歯ブラシや舌ブラシを使用し、夜間は義歯洗浄剤で消毒管理している。入居者中6名は全て自歯であり、必要時は歯科で歯垢削除等お願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人ずつの排泄の状況に応じて、布シューズのみ、布シューズにボイズやパッド、リハビリパンツのみ、リハビリパンツにパッド使用等使い分けている。状況次第でパッドの種類を変更しコスト面での負担軽減に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人ずつの排泄の状況を把握し、出来るだけ身体を動かされるよう促し、排便困難時は、個々に応じてきな粉牛乳の提供や繊維質の野菜を取り入れた料理やおやつ等をメニューに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴でゆっくり楽しまれるよう配慮しながら、季節によっては菖蒲湯やゆず湯等でリラックス出来るひと時を提供している。要望に応じて入浴時に髪染めをされる方もおられる。爪切りやクリーム塗布等整容ケアの場としても大切な時間と考える。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操や歩行訓練、その他の活動等適度な運動を取り入れ、夜間の安眠に繋がるよう支援している。定期的に布団干しを行い、居室は換気や適温・適温に配慮し、心地よい休息や安眠の場づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを基に、全職員で利用者毎の服薬内容を把握、共有している。服薬の際は、名前や日付を声に出して確認し、最後まで確実に目視で見届けるよう徹底してその後も状態観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者お一人ずつの出来ること、好まれることを把握し促しながら、歌や踊り、塗り絵、貼り絵、裁縫、編み物、家事、菜園活動等に取り組み楽しませられている。洗濯物やおしぼりたたみ、花の水替え、玄関やバルコニーの掃き掃除をされる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の帰省や冠婚葬祭時等、本人様や家族様の希望に応じて外出していただいている。花見や神社参拝等、皆様一緒に近隣に出かけられることもある。新型コロナウイルス感染症5類移行後、徐々に対応を緩和しているところである。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	神社参拝時等は、お一人ずつそれぞれがお賽銭を持参される。コロナ禍以前は移動販売やふるさと祭りに外出の際にお金の所持や使用を支援していた。今後徐々にそのような機会を提供していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いの作成、日頃の電話やはがき・手紙のやり取りをされている。担当職員からのメッセージカード・広報誌の郵送、行事や活動のブログでの発信等、状況の報告や共有に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、明るさや分かり易い表示等に配慮し、周りの手すりの設置で安全な動線を確保し、ホールの壁には、季節に応じた飾りや日頃の活動時の写真をほどこし、いつでも足を止めて、思い出話等が出来るよう又穏やかな気分で過ごされるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを置きそれぞれの馴染み関係の構築を支援し、バルコニーや園庭のベンチで散歩の合間等に休憩や会話出来る場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子、飾り物、写真立て等を持ち込まれ、落ち着いた雰囲気の中で過ごされるよう努めている。中にはご位牌を置かれ、仏飯とお茶を備えてお参りされている方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かり易いように掲示したり、明るい雰囲気作りに配慮し、施設全体の必要ヶ所に手すりを設置し、動線を確保して安全・安心な生活を送ることが出来るよう環境を整えている。		